

“はな”といふ言葉

然し、漢字によって日本語の本義が忘れられ、歪められてしまっても、悪くないどころか良い場合もあるものである。

例へば、“はな”といふ言葉の場合がそれである。この言葉の本義は、「物の突き出た所」「突端」といふ意味だらうと思はれる。それで、“端”といふ字が“はな”と訓まれてゐるのであらう。

草花の“花”は、茎の一番先端の突き出た所に咲くものである。茎の“はな”に咲いたものだから“はな”と言つたのだと思ふ。「あの端を御覧」と言つたのが「あの花を御覧」といふことになつたものであらう。だから、“花”の“はな”も本来は“端”の“はな”であつたに違ひない。

また、顔の“鼻”も、顔の中で一番突き出た所である。だから、これもやはり「顔の“端(はな)”」といふ意味から“はな”と言つたものであつて、“鼻”といふ漢字表記のために“花”や“端”と無縁の言葉のやうに思はれるやうにたつたものだと思ふ。

読者は、“端”と“花”と“鼻”とは、たまたま同じ発音の言葉なのであつて、全く別の言葉、“同音異語”と思つてあつたに違ひないと思ふ。然し、本当は元は一つの言葉であつて、漢字のお蔭で、これら異つた使ひ方に依つてそれぞれに適合した表記が出来るやうになつたため、

これが同音異語だと思はれるやうになつたものである。

「鼻から出る粘液」をやはり“はな”と言ふが、漢字では“洩”と表記する。この場合は“洩”といふ表記であつても、“はな”と訓むのは“洩”が「鼻から出る」からであることは容易に解ることなので、同音異語だと思ふ人はゐないと思ふ。

以上述べて来たやうに、日本の言葉は概ね大まかな表現で抽象性が強い。これに反して中国の言葉(欧米の諸言語も)は、表現が非常に細やかであり、具象的である。だから、日本語を漢字で表記するやうになつて、日本語に欠けてゐた面が漢字によって補はれ、日本語は充実したのである。